

## 現状の課題

- ◇ 自分の考えをアウトプット(話す・書く)するための基礎的・基本的な英語力が定着していない。
- ◇ 失敗を恐れてなのか、「まず挑戦してみる」という一歩が踏み出せない生徒が多い。
- ◇ 与えられた課題には熱心に取り組むが、自らやるべき事柄を把握し、更に上を目指そうとする向上心や貪欲さがやや低い傾向にある。

## 具体の取組の内容

- 単語テスト・英語構文テスト(1・2年次)・・・語彙力と構文力の定着に向けて、それぞれ週1回ずつ継続して実施している。発音したり、書いて覚えたり、教材に付属しているスマートフォンのアプリを利用したりするなど、テストに合格しようと努力している。
- レシテーションコンテスト(1年次)・・・あらかじめ与えた4～5種類の教科書内又は有名人のスピーチ(一部分)から一つ選び、暗唱して発表する。友人同士で何度も練習したり、モデル(手本)を真似したりして真剣に練習する姿が見られた。
- メッセージコンテスト(2年次)・・・6種類のテーマの中から一つを選び、自分のオリジナルメッセージを作成し、発表する。友人同士でメッセージを読み合っって練習したり、意見を交わしたりしながらより良いものへと仕上げていった。
- 小中高を通した英語の学びの接続、高校3年間や各学年及び単元全体を見通した指導計画の作成、言語活動の設定、授業の在り方、評価規準についての研究(教員)



英語指導力向上事業  
授業公開の様子  
(R5.12.14)

## 成果①

- 単語テストや構文テストを継続して行うことで、合格率が徐々に上がってきている。基礎的・基本的な語彙や文構造が、少しずつではあるが、確実に定着している。
- レシテーションコンテストやメッセージコンテストの発表に向けた準備を通して、人前で堂々と英語を発話することに対する抵抗が少なくなる兆候が見られる。また、英文の発音チェックや添削を行うことで、今まで気付くことができなかつた間違いを修正することができたり、新たな表現を身に付けることができたりするなど、知識・技能の面での向上にもつながっている。

## 成果②

- 小中高で同じ様式を用いたCAN-DOリストを作成することができた。小中での学びを、高校でどのように膨らませるべきか、どのような指導が効果的か、などについてのイメージを持つことができた。
- 授業内で行う言語活動について、「その活動は何のために行うのか」「何をもって評価するのか」等の視点を持つことで、授業づくりの大切さや、単元全体を見通した指導計画作成の重要性を改めて認識することができた。

## 今後の課題・方向性

- ◆ 身に付けた語彙や文構造を、いかに応用し、「発信力」につなげていくかが今後の大きなポイントである。そのためには、やはり基礎基本の確実な定着は欠かせない。一度学習したことに繰り返し触れさせ、いつでも活用できるように指導していきたい。また、授業内での言語活動やパフォーマンステストを充実させ、生徒が英語でアウトプットする時間を更に多くしていきたい。これらのことが「発信力」を育成し、延いては、「大学入試で使える英語」「コミュニケーションツールとしての英語」を身に付けることにつながるであろう。
- ◆ 高校3年間を見通した指導をするために、授業づくりや言語活動のアイデアなどについて、英語科教員間での情報共有を更に充実させ、学校全体としての教科指導を強化していきたい。